



第1学年3組 国語科学習指導案 福井県福井市順化小学校

手話49年6月10日(月) 第5校時

1 題材 ありとはと

2 本時の目標

池に落ちたありが、はとに助けられるまでのいきさつを話し合い、やさしく親切なはとの気持ちをよみとるようにする。

3 児童について

(1) 題材についての児童の意識(児童の1次感想)

登場人物の気持ちにふれている子16名。疑問のかたちで書いている子6名。書いてはあるが意味がわからない子2名。(T1児、N4児)「ありさん」と4字しか書けない子2名(H1児、H2児)

(2) 発表することを喜び、全員みんなの前で話すことができる。しかし、集中して話し合うことのできるのは、10分間程度で、それ以上話し合いが続くと聞く態度が悪くなる。

たいへんよく発表し内容もすぐれている子8名。

よく発表するが、終わりまで話を聞くことができない子1名。

発表しない子3名。(Y1児、T3児、N4児)

(3) ありやはとになってふたりぐみで動作化することは、難しいが、動作化することが好きなふたりぐみは9組ある。特にK1児とH2児、Y4児とK4児のふたりぐみは、動作化を好みじょうずである。

(4) 口では、文を声に出して読んでいるが、だれがどうしたのかを考えて読めない。だから、教科書に書いてあることを聞いても答えられない子が5名いる。1年生初期の段階なのでありやはとの心のかよいあいということは読みとりにくい状態である。

4 題材について

(1) ひらがなは、ひととおり学習を終了し、ひらがなの文章なら読むことのできる段階に入っている。だから、だれがどうしたということや、ありやはとの気持ちなどを読みとり、登場人物になりきってはっきりとわかりやすく読めるようにするのに適切な題材である。

(2) 「ありがとうございました」をおさえるだけではなく、「どんな在処、どんなふう、どんな気持ちでどうしたの」のように意味をふくらませたり、文に書いてなことがらを切り絵や動作化や話し合いによって、さぐったり、つけくわえたりして、ひとりひとりの読む力を育てることができる題材である。



5 指導について

(1) 「どんな池に落ちたのか」という発問から池のようすを想像させ、「池に落ちたありをみて、はとはどう思っただろう」ということを読んだり、話したり、動作化したりなどで、ありやはとの気持ちをふくらませる方向に進めていきたい。

(2) ひとりひとりが、ありやはとになりきり会話のつづきを考えながら、行間を読み、想像の世界にはばたけるような読みをさせたい。

(3) 書くことに抵抗がT1児、N4児、H1児、H2児たちは、となりの子と力を合わせてふたりぐみで、ありやはとになって動作化させることにより、はとの気持ちを読みとらせたい。

(4) 発表しないY1児やT3児は、書くことが、すぐれているので、ありさんやはとさんへ手紙を書かせ、発表するようにしむけたい。

6 指導計画 11時間

(1) 全文を読み、学習のねらいをはっきりする。ことばの練習をする。

(2) 一次感想を書く。

(3) 感想を話し合う。

(4) あらすじを読みとる。

(5) ありを助けたはとの気持ちを読みとる。(本時)

(6) ありとはととの心のつながりを読みとる。

(7) 二次感想を書く。

(8) つづき話を書く。

(9) はっきりと読む練習をする。ことばの使い方を練習する。

(10) 全文を正しく視写する。まとめをする。

(11) 他の童話を読む。



7 学習指導の過程

過 程	教師の働きかけ	児童の活動	指導上の留意点
めあてをもつ	○ありとはとの気持ちを調べよう。	○ 学習の目当てをつかむ。	○ひとりひとりにめあてをつかませる。
読む	○ようすや気持ちを考えて読もう。	○指名読み。	○地の文と会話の文に気をつけて読ませる。
話し合う	○あらすじを思いうかべてみよう。	○前時の学習を思い出して簡単にあらすじを話す。	○具体的な発問で、T 1 児、H 1 児、N 4 児の頭の中にすじを描かせたい。
	○池に落ちたありは、どんな気持ちで「たすけてくれ」とさけんだのだろう。	○ありが大声でさけんだのは、なぜかいろいろ考えてみる。	○OHPで「さげびました」に気づかせ、ありが自分の方では、どうにもならない気持ちを考えさせたい。
	○池に落ちたありを見て、はとはどう思っただろう。	○はとのペープサートをつかって、はとのことばを考える。	○「これにつかまりなさい」のつづきをかんがえさせることにより、はとのやさしい気持ちを想像させる。
		○ありやはとになってふたりぐみで動作化する。	○H 1 児、N 4 児、H 2 児、T 1 児たちには、動作化によって、はとの気持ちをみんなに、ひろめていきたい。
	○ありやはとの話を池の中でじっと聞いていたさかなたちは、どんなことを話しただろう。	○自分のすきなさかなになり、4人ぐみで話し合う。	ひとりひとりがありやはとのなかまいりをしてやさしい心情を高めさせる。
読む	○ありやはとの気持ちとそっくりなように読もう。	○ありやはとになったつもりで読む。	○感情をこめて読ませる。
感想を書く	○ありさんやはとさんに手紙を書こう。	○すきなところ、よかったなあと思ったところ、教えてあげたいことなど感じとったことを書く。	○個別指導で十分感じとれていないH 1 児、N 4 児、T 1 児に助言する。
		○ありは、はとにどうし	



次時への発展	○ありが助かったあとはどうなるだろう。	てあげたいと思っただろうか。	○次時の学習問題をなるべく児童に考えさせたい。
--------	---------------------	----------------	-------------------------

授業の観点

文学的な作品において読みとったことをどのように表現させ、ひとりひとりの読む力を育てるには、どうしたらよいか。